

宮崎西高等学校・きみろん I 「課題設定過程での観点別ルーブリック評価表」

評価の段階→		C	B	A	S(A)	評価の規準(参考)
↓評価の観点						
知識・技能	自分が設定した課題が未解決かどうか、書籍等で十分に調査していない。情報の出典も明記しておらず、ネット等の断片的な情報のみで信頼性が乏しい。	設定課題について背景となる知識をもとに未解決であることを明らかにしている。まだ情報の整理が不十分で、やや客観性・関連性の乏しい内容を多く含んでいる。	きちんと出典を明らかにして、自分の設定課題に関する背景や知見、先行研究について、数多く調査済みで、設定した課題が未解決だと明確にわかる。	設定課題に関する背景や知見、先行研究について関連性の高いものを選んだり、整理したりと課題が未解決であることを論理的に示している。	自らが関心を分野について、すでにわかっていること、どこまで解決され、どこからが未解決なのかといった事項を、自ら書籍等を用いて調べ上げて整理し、理解できる。	
思考力 判断力 表現力	検証するまでもない、自明のことについて仮説設定を行っている。自分独自の検証結果を得ていく姿勢が乏しい。他人のデータをそのまま引用して終わる可能性が高い。	検証に時間や労力がほとんどかからない仮説を設定している。自分独自の検証データを得ようとしているが、課題解決につながらない部分が見られる。	検証に値する仮説を立てており、課題解決につながっている。検証をするのに、適切で妥当な調査や実験を自分でよく考え計画している。	自ら設定した課題に即して論理的に仮説を立て、結果を客観的に予想した上で、それを検証するのに合理的な調査・実験を独自に計画している。	発見した課題について、解決に向けた見通しをもち、仮説を立て、その仮説の検証方法を独自に考えて立案できる。	
主体的に学習に取り組む態度	個人的に興味や関心をもっているだけで、解決すべき課題が大きすぎて絞り込まれておらず、具体的目標がない。課題を自分で解決する意欲が表明されない(できない)。探究による課題解決が周囲や社会にもたらす意義には関心を示していない。	個人的観察や身近な疑問点等をもとに、ある程度具体的に課題を見いだしているが、一部に抽象的な部分も残る。自らの手で課題解決する意欲を表明しようとしている。探究による課題解決が周囲や社会にもたらす意義について理解はしているが、関心は高くない。	個人の観察や身近な疑問点等をもとに具体的な課題を設定しており、課題解決に向けて自ら意欲をもっていることが明確に表明されている(しようとしている)。探究による課題解決が周囲や社会にもたらす意義を理解し、関心を示している。	課題を自分事としてとらえ、問題解決への意欲を強く表明している。十分に周囲の共感と理解を得られるように、その動機などを明確かつ適切に表現できる状態にある。探究・研究が将来の社会貢献につながるという態度で取り組んでいる。	探究計画書の記載が不十分と判断される場合、態度はCとする 自己やその周囲、社会などの事象には様々な課題が存在することを自ら発見でき、その課題解決に向けて探究しようとする。	